

## 新型コロナウイルス感染症後遺症

新型コロナウイルス感染症の治療や療養の終了後に、他に明らかな原因がなく、倦怠感、息切れ、思考力や記憶への影響などの症状（罹患後症状または後遺症という）が見られることがあります。

WHO（世界保健機関）では、後遺症（post COVID-19 condition）について「新型コロナウイルスに罹患した人にみられ、少なくとも2カ月以上持続し、また、他の疾患による症状として説明がつかないもので、通常はCOVID-19の発症から3カ月経った時点にもみられる。」と、定義しています。

COVID-19の長期に遷延する症状については、未だ不明点が多く、COVID-19に対する社会的不安を引き起こしています。

後遺症と見られる主な症状は、疲労感・倦怠感、息苦しさ、筋力低下、睡眠障害、思考力・集中力低下、脱毛が報告されており、退院時までにこれらの症状が出現した患者の3割以上で診断6か月後にもこれらの症状が認められています。コロナ後遺症相談窓口へ相談者が訴える症状は様々であり、1人の相談者が複数の症状を訴えるケースもあります。

遷延する症状が1つでも存在すると、QOL（Quality of Life）は低下し、不安や抑うつ及び新型コロナウイルスに対する恐怖心が強まり、睡眠障害を自覚する傾向も報告されています。

コロナウイルスに感染しないことが、後遺症の予防なのですが、上記の症状がある場合は後遺症外来を受診しましょう。

参考文献：「新型コロナウイルス感染症 診療の手引き（別冊） 罹患後症状のマネジメント（第1.1版）」より

以下、参考までに添付します。

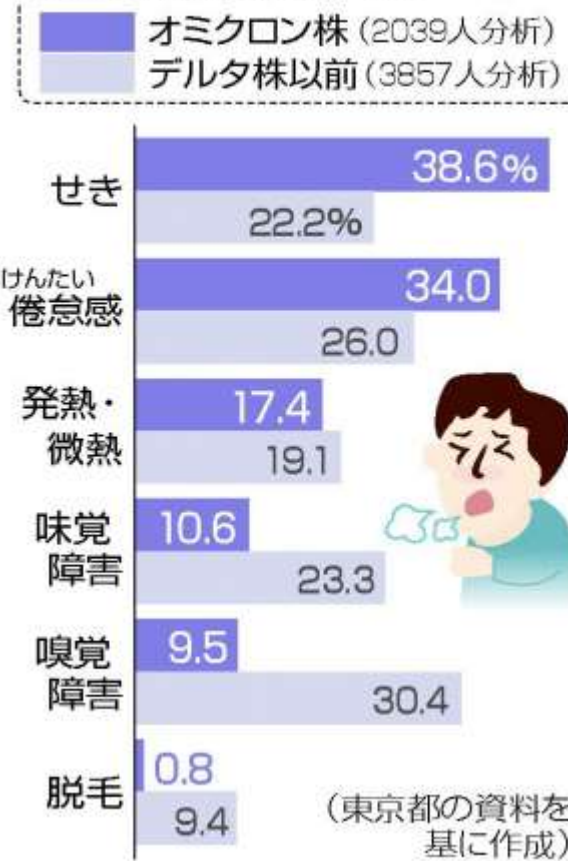
### 1) 第6波コロナ後遺症の症状



福井県は6月15日、県内の流行第6波の感染者のうち少なくとも126人が後遺症とみられる症状を訴えて医療機関を受診したとの調査結果を明らかにした。第6波の県内感染者3万3547人（10日現在）の0.3%に当たる

2) オミクロン、せき・倦怠感増 新型コロナ、都が後遺症分析—専門医「長期化の傾向」(時事ドットコム(2022年06月05日))

### コロナ後遺症として相談者が訴える症状〔複数回答〕



新型コロナウイルスのオミクロン株感染による後遺症の実態が、少しずつ分かってきた。デルタ株以前より、せきや倦怠(けんたい)感を訴える割合が多いが、味覚・嗅覚障害は少ないとされる。専門医は「後遺症は長期化傾向がある。感染時は軽症でも油断は禁物だ」と呼び掛ける。

